

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 邦文



■ 住みよさランキング

毎年、ある出版社の別冊号で、全国自治体の住みよさランキングが発表されていますが、今年は、国（経済産業省）も、東京一極集中を何とか是正し、東京圏に住む住民の地方への移住を後押しするため、「生活コストの『見える化』システム」なるものを初めて公表し、全国の市区町村別に地域の暮らしやすさ（利便性志向）を比較するシステムを作りました。

このシステムは、まず20歳代から70歳代以上までを10歳ごとにひと区切りにし、その区切りごとに、「単身世帯」「夫婦のみの世帯」「夫婦と子ども（乳幼児）の世帯」「夫婦と子ども（小中高生）の世帯」「夫婦と子ども（大学生以上）の世帯」と世帯を5つに分類しています。そして、年代のひと区切りごとに、5つに分類された世帯別の「生活利便性」「働きやすさ」「教育・子育て」「医療・福祉」「災害」「自然環境」「ライフスタイル」の総得点を合算し、全国（1,741の市区町村）、地方別（例えば中国地方は107の市町村）、都道府県（例えば山口県は19の市町）における順位を付けたものです。

これによると、本市の関係分は以下のとおりでした。本市は、「20歳代の単身世帯」では全国13位、中国地方5位、山口県3位。その他の年代、分類による主な順位は次表のとおりです。

世帯の分類	全国	中国	県
20歳代			
単身	13	5	3
夫婦のみ	4	4	2
夫婦と子ども(乳幼児)	7	1	1
30歳代			
単身	7	3	1
夫婦のみ	9	4	3
夫婦と子ども(乳幼児)	6	2	1
夫婦と子ども(小中高生)	10	4	3
40歳代			
単身	20	4	3
夫婦のみ	10	3	2
夫婦と子ども(乳幼児)	8	4	1
夫婦と子ども(小中高生)	9	2	1
夫婦と子ども(大学生以上)	9	3	1
50歳代			
単身	11	2	1
夫婦のみ	18	2	1
夫婦と子ども(小中高生)	10	4	3
夫婦と子ども(大学生以上)	12	5	3
60歳代			
単身	22	2	1
夫婦のみ	12	3	1
夫婦と子ども(大学生以上)	16	2	1
70歳代以上			
単身	94	7	2
夫婦のみ	37	4	2

これをみると、UJIターンの条件は揃っているようですね。

なぜこんなに本市の格付けが高いのか？市長として面映ゆく感じます。経済産業省の担当者から詳しく説明を聞いたうえ、またみなさんにご報告します。